

権威ある化粧品技術者学会で ポーラ化成工業が「最優秀賞」を連続受賞

ポーラ・オルビスグループのポーラ化成工業株式会社(本社:神奈川県横浜市、社長:三浦卓士)は、2015年9月21日～23日にスイス・チューリッヒで開催された第23回国際化粧品技術者会連盟(以下IFSCC)中間大会(Conference)の口頭発表部門において「最優秀賞」を受賞しました。

IFSCCでの最優秀賞受賞は、昨年パリで開催された世界大会に続き2年連続となります。

ポーラ化成は過去に、世界大会(IFSCC Congress)において口頭発表部門で4度の最優秀賞と2度の優秀賞を、ポスター発表部門で最優秀賞を1度受賞していますが、世界大会の間の年に開催される中間大会における口頭発表部門での受賞は初めてとなります。

今回の中間大会には世界18カ国余から19件の口頭発表及び222件のポスター発表がありました。

受賞論文概要

■論文タイトル: 『皮下組織内部の線維構造 (retinacula cutis) に着目した、新たな“タルミ”のメカニズムの解明』

英文名: Breakthrough in improving the skin sagging with focusing on the subcutaneous tissue structure, retinacula cutis

発表者: ポーラ化成工業(株) 肌科学研究部 坂田 綾、水越 興治、五味 貴優
国際医療福祉大学 三田病院 阿部 克弘、奥田 逸子

■発表内容概要

顔のタルミは、特に中年以上の女性にとって大きな肌悩みのひとつである。今回、タルミの改善に対する効果的なアプローチ方法を導くため、真皮より深い場所にある皮下組織下部の皮膚支持帯(RC)と呼ばれる線維状の網目構造に新たに着目し、皮膚のタルミとの関連性について世界で初めて検討した。

健常日本人女性(20代と50代)を対象に、核磁気共鳴イメージング(MRI)を用いて非侵襲的に*顔面の断層像を取得し、画像解析によりRCの密度を算出した。そして、タルミスコア、皮膚深部弾力性の2つの指標を用いてタルミ度合を評価し、RC密度との関係を解析した。その結果、RCの網目構造が疎になることで皮膚深部の弾力性が低下し、タルミが引き起こされると推察した。以上のことから、MRIにより非侵襲的にRC構造を観察する手法が新たなタルミ評価法として有用であることが導かれ、さらにRCの網目構造をより密にすることがタルミの改善につながるものと考えられる。

*生体を傷つけずに



口頭発表部門で最優秀賞を受賞した坂田綾研究員

IFSCCについて

IFSCCは世界で最も権威ある化粧品に関する学会で、世界47ヶ国が加盟しています。2年ごとに世界大会(Congress)が行われ、世界大会の間の年には中間大会(Conference)が開催されています。今回開催された中間大会は、特に若手の教育育成及び規模の小さな会員国からの参加を促すことを目的としています。

ポーラ化成工業によるIFSCC世界大会受賞歴

2014年	パリ大会	最優秀賞(口頭発表基礎部門)
2012年	ヨハネスブルク大会	最優秀賞(ポスター発表部門)
2008年	バルセロナ大会	最優秀賞(口頭発表基礎部門)
1998年	カンヌ大会	最優秀賞
1996年	シドニー大会	優秀賞
1994年	ベネチア大会	最優秀賞
1986年	バルセロナ大会	優秀賞

【参考】ポスター部門の最優秀賞について

<論文タイトル> AHR antagonists: potent cosmetic actives to protect against air pollution induced premature aging

<発表者> Imke Meyer et al. (Symrise AG)

【本件に関するお問い合わせ先】 (株) ポーラ・オルビスホールディングス コーポレートコミュニケーション室
Tel 03-3563-5540/Fax 03-3563-5543